

特別展

サントリー美術館名品展

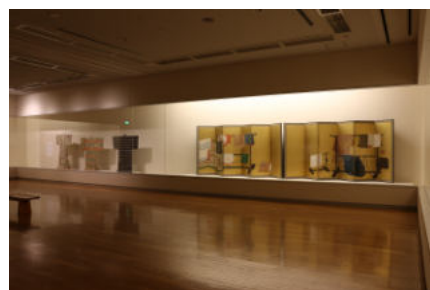
一佐竹本・三十六歌仙絵から円山応挙、エミール・ガレまで

2022.7.16(土) - 9.11(日)



♥️💬📧 #《樹下麝香猫図屏風》(部分) 伝 狩野雅楽助之信 サントリー美術館蔵

サントリー美術館名品展では、絵画・陶磁・漆工・染織など日本の古美術を中心に、エミール・ガレなどのガラス作品を交え、全51件の作品を展示しました。秋田ゆかりの《佐竹本・三十六歌仙絵 源順》が出品されるということで、展示の目玉として、ポスターやチラシなどで大きく取り上げました。佐竹本以外にも多くの名品が出品されたこともあり、展示数は少なかったものの、大変見応えのある展覧会になったように思います。秋田において、高いレベルの古美術を紹介する展覧会はそうそうあるものではなく、とても貴重な機会でしたが、開幕直後に新型コロナウイルスの感染者が急増したこともあり、多くの人にご覧いただけなかったのがとても残念でした。(担当: 秋田・木村)



展示室風景



7/23 ギャラリートークの様子

美術館教室・館長講座

- 🎨美術館教室(中学生以上一般)
 - 「工芸教室一蒔絵で彩る」5/14、15(各1日) 講師: 齋藤國男さん(漆芸家)
 - 「写真教室ライティング撮影・現像&プリントに挑戦!」6/25、26(各1日) 講師: 草薙裕さん(秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻助教)
- 👨‍🎓みんなの教室(小学生以上一般)
 - 木の工作「つくろう! ぶんぼうぐアニマルズ2」7/24 講師: 当館学芸主事
- 👧きッズあーと(未就学児: 4~6歳)
 - 「おさかなすいぞくかん」8/7 講師: 当館学芸主事
 - 「ねんどランドであそぼう」9/4 講師: 当館学芸主事
- 📖特任館長講座
 - 講師: 仲町啓子特任館長(実践女子大学名誉教授)
 - 江戸時代の美術と文化! 「豪放から瀟洒(しょうしゃ)へ」5/7より継続



工芸教室の様子



館長講座にて

Report

information

- ▶ 特別展
 - 「没後20年 佐々木裕久展一闇を研ぐ、想いが舞うー」11/19-2023/2/5
 - 「横山津恵デッサン展」2023/2/11-4/16
- ▶ コレクション展
 - 第3期「山粧いて山眠るー秋から冬の景色ー」10/5-2023/1/4
 - 第4期「ウサギをさがせ!」2023/1/7-4/9
- ▶ 館外展示
 - ネットワーク事業「アートにみるイキモノたち」(仮) 12/15-2023/1/24
- ▶ ふれんどりーギャラリー展示
 - 「大関智子作品展 New Wild」9/4-10/5
 - 「伊藤由美子版画展」10/8-11/13
- 🎨美術館教室(中学生以上一般)
 - 「版画教室」10/22、23(各1日) 講師: 伊藤由美子さん(版画家)
- 👨‍🎓みんなの教室(小学生以上一般) ※低学年児童の参加は要保護者同伴
 - 「新年に願いをこめて」(絵馬・羽子板) 12/4 講師: 当館学芸主事
- 📖特任館長講座
 - 江戸時代の美術と文化! 「豪放から瀟洒(しょうしゃ)へ」10/8、11/12、12/10

※新型コロナウイルスの感染拡大により、延期・中止となる場合がございます。

2022年 下半期実施予定事業

秋田県立近代美術館 Akita Museum of Modern Art

〒013-0064
秋田県横手市赤坂字富ヶ沢 62-46 (秋田ふるさと村内)
TEL: 0182-33-8855 FAX: 0182-33-8858
E-mail: akitamma@rnac.ne.jp

ホームページは「秋田県立近代美術館」で検索!
twitter、facebook もご覧ください。

交通案内
お車で | 秋田自動車道・横手インターより3分
バスで | 横手バスターミナル(JR 横手駅東口) ~ ふるさと村 15分

美術館ニュース ARK84号 (2022年上半期) 発行編集 / 秋田県立近代美術館 2022年 9月 30日発行



Akita Museum of Modern Art



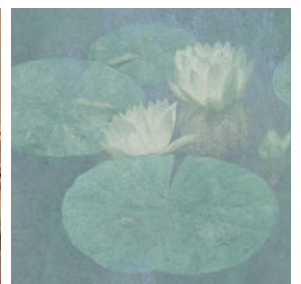
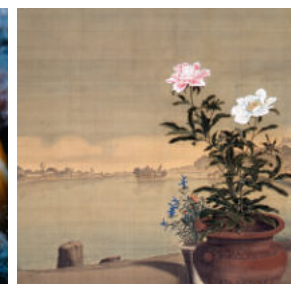
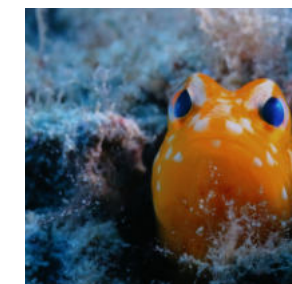
サントリー美術館名品展の目玉として、約100年ぶりに秋田に帰ってきました!

#重要文化財 《佐竹本・三十六歌仙絵 源順》(部分) 画/伝 藤原信実 書/伝 後京極良経 サントリー美術館蔵

秋田県立近代美術館ニュース アーク

ARK No.84

2022.4 - 2022.9



特別展

日本画家 堀文子 百年の旅

2022.4.23 (土) - 7.10 (日)



📍 #4/23 中島良成氏スペシャルギャラリートーク

昭和10年代から平成末まで、日本画壇を代表する画家として活躍した堀文子(1918-2019)の展覧会。第1章は若き堀が新たな思潮を取り入れながら自身の画風を模索した時代、第2章は堀の初期の画風を確立する力となった、秋田出身の日本画家・柴田安子と福田豊四郎の紹介、第3章は初めての海外渡航から帰国後に過ごした大磯や軽井沢の時代、第4章では小さな生命や日常の美しさに目を向けた80代初期から晩年までと、生涯「一所不住」の精神を貫いた、堀の初期から晩年までの作品を紹介しました。また、堀を長く支えた中島良成氏のスペシャルギャラリートークでは制作や生活の裏話を、そして急遽決まった檀ふみ氏による講演会では、朗読も交えながら堀の心引かれる思い出話を語っていただきました。

(担当: 保泉・鈴木京)



5/22 学芸員のギャラリートーク

コレクション展 | I

描かれた気象

2022.4.13 (水) - 7.3 (日)

気象は私たちの生活と深く関わっています。四季のはっきりしている国に住む私たちは、このような気象現象そのものや、雨や雲、雪とともにある自然に美しさや風情を感じ、大いに関心を寄せてきました。他にも月明かりや夕焼けなどの現象は作家の創作意欲をかき立て、しばしば画題に取り上げられてきました。本展では気象をテーマに、自然の諸相が巧みに表現された作品を通して、当館のコレクションにおける造形の豊かさをご観いただきました。

空に浮かぶ雲ひとつをとってみても、明治時代以前の山水画では紙の余白を巧みに生かして表していますが、近現代の日本画では岩絵具の粒子を塗り重ねて複雑な夕焼けに染まる色を表現したりと、作家の視点や時代の違いによって実に多彩です。ご覧いただいた皆様からは、描かれた気象の様子から作家それぞれの自然観や個性の違いに気づいた、同じような天気でも画材によって様々な表し方があるのがわかった、などの感想をいただき、十分にお楽しみいただけたと感じています。(担当: 木村)



コレクション展 II 期会場風景



高橋清見《水無月の頃》

コレクション展 | II

夏を見る

2022.7.6 (水) - 10.2 (日)

日本では、花鳥風月や雪月花といった表現で表されるように、うつりゆく自然の変化や季節ごとの文化を愉しんできました。四季折々の情景は創作活動の題材としても好まれ、作家の鋭い観察眼と高い美意識をもって創られた作品は、観る者の目を引きつけます。

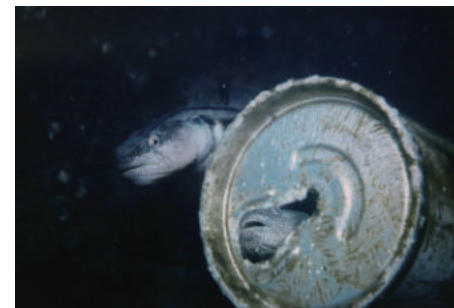
本展では収蔵作品の中から「夏」をテーマにセレクトした作品を展示しました。この季節にみられる自然の風景や行事など、様々なモチーフが作家の感性で描かれ、夏の焼け付くような暑さや爽やかな涼を感じられる作品をご観いただきました。(担当: 鈴木秀)

出前美術展 in 能代エナジウムパーク

中村征夫写真展

～海の子の顔! かも! カオ!～

2022.8.17 (水) - 8.28 (日)



《空き缶から顔を出す魚》



《イレズミアマダイ》

能代エナジウムパークを会場に当館の所蔵作品を紹介する「出前美術展」は、今年度が10回目の開催となりました。今回は秋田県昭和町(現・潟上市)出身の水中写真家・中村征夫(いくお)さんの写真作品を展示しました。海に住む生き物たちの愛らしい表情や、迫力ある姿を捉えた作品50点を、1,226名のお客様にお楽しみいただきました。(担当: 藤井・木村)



齋藤國男漆芸展

2022.4.30 (土) - 5.29 (日)

ふれんどりーギャラリー展示

美術館教室の併催事業として、当館では講師の作品を展示し間近で鑑賞できる機会を設けています。今年度上半期は、漆芸家・齋藤國男氏、写真家・草薙裕氏による作品展を開催しました。なお、草薙裕写真展では、受講生の作品も途中から出品されました。滑らかな漆の肌空間や宇宙を感じさせる齋藤の作品。水と光が織りなす一瞬に永遠性を与える草薙の写真。5階の隅にある小さなギャラリーですが、現在進行形の秋田の作家の作品を見られる特別な場となりました。素敵な作品をご出品くださった作家の皆様、ありがとうございました。

※大関智子日本画展の開催の様子は次号に掲載します。



草薙裕写真展 アルケー arkhē ～水と太陽～

2022.6.21 (火) - 7.24 (日)

開催中!!

秋田蘭画の世界

『解体新書』から《不忍池図》へ

前期: 2022.9.17 (土) - 10.16 (日)
後期: 2022.10.19 (水) - 11.13 (日)
10.17(月)、10.18(火)は展示替えのため休場

当館では23年ぶりの、秋田蘭画を特集した大きな特別展を開催しています。秋田蘭画は江戸時代の秋田藩の大名・武士が描いた洋風画のことで、近代に入ってからその名が付けられました。本展では県内外に所蔵される絵画の優品とともに、書簡などの周辺資料もご紹介。秋田蘭画がまるごとわかる展覧会になっています。

見どころはなんと言っても前期展示の《不忍池図》(当館蔵、重要文化財)を含む代表作の数々ですが、今回は更に、直武の貴重な初期資料や、彼が目にした『ターヘル・アナトミア』を含む洋書や銅版画、直武ゆかりの画材も展示しています。横手にて、秋田蘭画に、ひたる秋。ぜひご来場ください。(担当: 鈴木京・秋田)



小田野直武《不忍池図》※前期展示